



旧徳中
城南高

同窓会報

第93号

発行所:旧徳中・城南高等学校同窓会事務局 徳島市城南町2-2-88 TEL088 (652) 0084

印刷:株式会社サラト



令和城南の教室より

桐本 さくら (3年生)

風が夏を呼んでいる。気がつけば三年目の夏を迎えようとしていた。向こうに見える眉山の木々が揺れ動く。外は天気雨のようで少しだけ濡れている駐車場が見える。窓のそこからファイヤーストームの歌唱指導が聞こえてくる。隣の子は邪魔な髪を右耳にかけなおして手元のテキストに向かってる。気分転換のために廊下に出ると教室にあかりがついていたので少し立ち寄ることにした。

教室にはだれもいなくて、外から威勢の良いかけ声が聞こえてきた。ベランダからそっと覗くとまだ慣れない調子で部活を仕切ったり、なりふりかまわず練習に打ち込んでいる後輩の姿が目に入った。「キヤアあ」

と甲高い声をする方を見ると一年生の女子が駐輪場でじゃれあいながら帰っていく。

「なに見てんの」と後ろから友達に声をかけられる。「いや、特に何も」そう答えるとベランダに出てきて隣に立った。

「雨止んだんだ。帰るなら今のうちやね」

「今までどこにいたの、職員室？」

「うん、質問しにいった」

彼女の手元にある問題集には計算用紙がところどころに挟まっていた。私には

人に言えるほど頑張ったことがあるだろうか。なにがあっても捨てられないものがあつただろうか。人より勉強ができるわけではない。その分、他の人は持っていない特別を持っているだろうか。このまま頑張りが足りないのであるだろうか。もう諦めたほうが早いのではないか。

「ねえ、こっち見てみ」

彼女はそう言う足元で栽培している植物を指差した。さっきの小雨は露さえもほとんど残さなかったらしい。

「なに？」

「四つ並んでるやろ」

私が頷くと続けて

「みんなちよつとずつ違うけど」

そう言いながら葉っぱを撫でる。

「上に伸びていきよるけん、心配せられん」

私は何も言わなかった。応えられなかった。

「そろそろ自習室に帰るわ」

勢いよく立ち上がって教室の中の時計を見た。

「あ」

彼女は何かを発見して空を指差した。

私が振り返るとそこには綺麗な虹が架かっていた。

桐本さくらさんは「青春さんは歌を歌う」で、平成30年第16回とくしま文学賞児童文学部門で「最優秀賞」を受賞されました。

ギター人生半世紀。未だ反省期

堀尾 和孝 (昭和49年卒)

私が、中学でギターを手にして50年、城南高校を卒業して東京に住んで45年、ギターを生業にして40年、アコースティックギターソロに転向して20年、そして2019年。令和の時代になりました。

2019年は、私にとつていろんな意味でキリの良い年です。そんな時に、城南高校同窓会での演奏、講演のお話しを頂き、嬉しくもあり恐縮でもあります。

そのお招きの素は、私の職業、ギタリストということにあるかと思っております。

中学入学祝いに、父がギターを買ってくれました。小松島の千歳橋近くの、三味線とギターを並べて売っているような田舎の楽器屋さん。付属のギター教本の表紙は、佐良直美さんでした！

大変弾きにくいクラシックギターでしたが、ボーンと鳴らした時の驚き、感動は今でも忘れません。その感動が50年後の今の私に直結しております。

城南高校時代は、ギターの上達と学業成績が、見事に反比例を描きました。髪は順調に伸びて、学年トップクラス！3年生の文化祭ではド派手に体育館でライブ！担任の増井先生には、随分御心配をおかけしました。それでもなんとか東京電機大学に入学。

当初は真面目に音響関係の仕事を目指していましたが、プロのバンドの誘いがくると見事に脱線！「大学を辞めて、プロギタリストに

なる！」当然、父からは猛反対！それからの父の口癖は、「ワシの人生最大の過ちはお前にギターを買ったことじゃ」それから40年…

父は母と一緒に、私の徳島ライブ、京都のライブ、横浜でのコンサート、大杉漣さんとのライブ、鶴瓶さんの落語会での演奏、ほとんど全てに来て応援してくれ、最高の辛口評論家になりました。私への！

かなり斜めですが、ベクトルは真つ直ぐに来た私のギター人生。毎日朝練をし、ギター講師をし、ライブ演奏に行き、レコーディングに行きます。ギター漬けな毎日。

しかし満足できる演奏は、稀です。でも、少しでも人の心を動かせる演奏ができればと願い、これから日々弾き続けて参ります。堀尾和孝、ギターを手にして半世紀、未だ反省期です。

大杉漣さん(右)と筆者



同期同窓会

2018年城南32会 傘寿同窓会に参加して

岡田 陽子 (昭和32年卒)

「傘寿の同窓会のお知らせ」の前置に、「80歳になれば昔から天寿、人生を全うしたといわれる。お祝いの同窓会を開催できるのは大変な喜びである」と書かれた。80歳！最近のこと、ベストセラー中の「君たちはどう生きるか」に手をかけて、はてさて「ぼくたちはどう生きるか」が問われる歳なのにと思い直して書棚に戻したり。

さて、11月11日の夕刻、会場のザ・グランドパレスに到着、受付はどこ？とろろろ、心配ご無用、お世話人さんのぼつと明るい声と笑顔、笑顔。ああここに帰ってきたと安堵するやたちまち城南高校時代へとタイムスリップ。卒後60有余年、変わらぬ素振りとそのままでの面々、世の荒波を乗り越えてよくぞ80年をと手を取り合う。明るく交わされる話題はすでにハート♥を通り越して専ら生老病死にわたるが、そこはなんととっても同じ時を呼吸してきた仲間、遠慮なく齟齬なく本音で通じ合える心地よさ、「うんうん、そうそう」話は尽きない。やがて、別れの時。又を約して声を合わせて校歌にしびれる。

2日目、オプシオンはゴルフコンペと見学ツアーの2本立て。ゴルフコンペ組は無類のメンバーでの至

福の時を過ぐすと聞く。

私は見学ツアー組。毎回の楽しい趣向に味を占めての常連参加である。今回は、マイントピア別子と東洋のマチュビチュ東平地区見学。東洋のマチュビチュ？皆、半信半疑、期待半分である。小さいバスは急峻な山また山を登っていく。ここ



は昭和43年に閉山したが、鉱石を処理したという大きな赤煉瓦の遺構がかつての隆盛を誇っている。盛時、7,000人が暮らしたという山。少しの平地はおろか緩斜面すら見えない山地に築かれて残る石垣や住居跡から、往時を知るガイドさんは日々のたつきの様子を眼前してくれる。暮らしを支える物資の調達、子供たちの学校、運動会…なるほどマチュビチュと納得する。

お世話人の皆さん、期待に違わぬ面白い企画をありがとうございます。

「昭和40年卒同窓会」

@阿波観光ホテル

武 輝幸 (昭和40年卒)

11月25日、14時開宴の我々の同窓会は、2016年開催以降、毎年開催されています。参加人数は56名で、4組が当番幹事組、正幹事は「昨年春の叙勲」で元日弁連理事として、日弁連旭日小綬章を受章した中西一宏さん、副幹事は元文部官僚の木村道夫さん。配布資料は事務に手慣れた彼が作成したらしく例年より充実していました。

木村さんの司会で、幹事挨拶(中西さん)のあと、残念ながら、数名の物故した同級生につき、家族から連絡があり、開会の辞に引き続き、物故者への黙祷を捧げました。記念写真は、1年1回のイベントを彩る装いで女性陣は参加して

いたのに比べ、男性陣は好々爺然としていました。その後宴席に着き、乾杯（松村病院長の松村英夫さん）。

昨年からの物故者については、「元気にしていたあの人が亡くなる」とは」と、慨嘆することしきり。

宴会中に、各組ごとに登壇して、各々近況を披露、クラス構成が1〜4組、5〜7組、家庭科と三部構成になっていることもあり、全く没交渉の人の近況報告は新鮮でもありました。

宴会の冒頭には、校歌斉唱、合間合間には高校3年生等の懐かしいメロディーが藤本孝さん、武村璋彌さんの伴奏で流れ、皆で合唱しました。しばしの青春回想でした。

宴会は、各組毎のテーブルに着席、懐古談に花が咲きました。

我々は戦後団塊の世代のはしりで、学習指導要領も新訂され、まさに戦後教育の新たな実験対象でもありました。1947年から1949年へ続く団塊の世代の大きなうねりを前にして、そのうねりに飲み込まれまいと必死に勉強して大学を目指しました。この青年期に始まった「大競争」は大学受験に始まり、就職、就職後の組織内での出世競争へと続き、高校3年時に開催された東京オリンピックから始まった高度成長時代のエネルギー源でもありました。

男性は必死に働き、女性は家庭を懸命に守る、昭和の社会の骨格ともなったのです。我々の世代は「団塊」として、大きな市場と勤勉な労働力を提供して、大量生産・大量消費時代を現出させました。

我々の世代は、皆んなこの競争の人生を戦った感慨を持ち合わせています。各テーブルもこの大競



争の出発点となった城南高校の生活を振り返り、人生の終着駅へと軌道を修正しつつある者、今なお意気盛んな者、友との会話の中で刺激を受け、あるいは再確認したことでしょう。

小宴の最後に、4組の岡本さんの音頭で万歳三唱で解散、女性は女子会、男性は山内農場での二次会、ある人は明日からのグランディ鳴門でのゴルフ大会2連戦を控えてゴルフ場のホテルへ直行しました。

来年は、我5組が幹事を務めることとなります。今から企画を練り、万全を期するとの意気込みで臨むつもりです。

昭和41年卒の青春回顧

田中 幸穂（昭和41年卒）

昭和41年卒は、いわゆる団塊世代の1期生です。38年入学当時は我々世代の急激な生徒数の増加（普通科1学年、11クラス、605名）で教室が不足し校舎を増築していましたが、間に合わず9組、10組、11組の3クラスは化学実験室、物理実験室、生物実験室で1年間を過ごしました。他のクラスが実験室を使用するときは体育や芸術（音楽、美術、書道）の授業で実験室を離れました。テストの時には先生が「隣の人の答を見ないように」と言われましたが、隣の友人とは肩が触れ合うように座っていました。なので問題用紙は丸見えでした。隣の友人の解答が違っても自分の答えが正しいと思いつ事はありませんでした。どちらが正しい答えであったかは記憶していません。

2年生からは普通の教室で授業を受ける事が出来、新1年生も普通教室でした。我々3クラスの生徒だけが1年間実験室で過ごしたわけで城南高校での記録だと思います。

2年生の時に東京オリンピックがあり、実況中継をポケットに忍ばせたポータブルラジオで聴いていました。文化祭、体育祭、ファイアーストーム、修学旅行と一番楽しい時期でした。

3年生では大学受験がありましたので進路によりクラス分けをし、文系クラスは、国語、英語、社会を重点に、理系クラスは、数Ⅲと

理科（物理、化学、生物）、混合クラスでは授業によって2クラスが混合で授業を受けていました。

先生が右を向くように指示を出した時に、素直に右を向く者、左を向く者、全く反応をしない者、どの級友も個性的でユニークで底知れぬパワーを秘めていたように思います。このような55名のクラスを生徒を纏めていた担任は本当に素晴らしい先生と敬服しています。今でも先生というより恩師として尊敬感謝をしています。



41年卒の同窓会は高校卒業後に何回かは有志で開催しましたが、本格的に同窓会を開きたしたのは平成8年に徳中・城南高校の全体

の同窓会の世話役が当ってからです。この時に世話人会を発足させ多くの同級生に参加して貰う為に3年時の各クラスより1名以上の20数名で準備委員会を構成し、ここで同窓会のスケジュールを決めています。準備委員会の日程を決め、世話人を招集するT君とY君、同窓会当日のプログラムや名札を作製してくれるK君、後始末の近況報告集を纏めるM君たちは無くてはならない存在になっています。住所の判明している全同級生に連絡して、平成18年、平成23年、平成25年、平成28年、令和元年5月に同窓会を開催し、3回は恩師を招待しました。参加者は80〜150名です。これ以外にも要職就任祝賀会、新年互例会等、県内在住の有志の集まりを数回開催しています。

最新の同窓会は令和元年5月18日にホテルで開催しました。この時の写真です。準備期間が少なかったので県内の同級生を中心に連絡し、県外から数名の参加と恩師の大津靖弘先生、北條種一先生が出席して下さい、約50名で一時を楽しみました。大津先生と北條先生は私たちとの年齢差を感じさせず、会場では挨拶が無ければ恩師と分からない位にお元気で、大津先生は翌日のゴルフコンペにも参加して下さいました。

平成18年に同級生の寄稿で「我ら団塊一年生」を自费出版しました。同時に校歌とファイアーストームの時に歌った寮歌を我々有志の歌声を吹き込んだCDをK君とH君の努力で自作しました。

平成28年にも同級生の寄稿で「我ら団塊一年生 其の二」を自费出版し、平成18年と違う曲を吹き込

原稿は「記録とします。」でしたが変更しております。ご確認ください。

んだCDも自作しました。これら出版本とCDは在庫がありますので興味のある方はお求め下さいましたら幸甚です。(連絡先・川竹道夫、mi@emie.co.jp)

1968年(昭和43年) 卒業生同窓会報告

津川 博昭 (昭和43年卒)

2018年(平成30年)4月14日、卒業50年記念同窓会を開催しました。2017年(平成29年)11月1日、第1回の準備会を行い、その後、3回にわたって準備会を開催し、各クラス毎に住所の調査を行い、当日の次第、運営を協議し、案内を郵送して準備をしました。郵送した案内が宛所不明で返送されてきたのは僅かに88通で、高精度(83%)の所在確認ができたことは準備会の成果だと思えます。その中で46名の学友が亡くなっていることが分かりました。当日、全国各地から116名が集まりました。ひとりひとりがマイクを握って自らの半世紀をふり返り、近況を報告しました。校歌斉唱では、皆、母校に熱い思いを持ち続けていたのでしょう。大きな歌声が会場に響き渡りました。そして、予め設営していた2次会まで、それぞれ旧交を温め、自分のアイデンティティを確かめる時間があったという間に過ぎていきました。

翌日15日、26名が参加してサンピアゴルフクラブで記念ゴルフ大会を行いました。こうして2日間 にわたる再会の時が終わりました。

昭和44年卒同窓会

木村 俊二 (昭和44年卒)



集合写真の撮影、物故者への黙とう、各クラス(1〜10組)毎に分かれての久し振りの自己紹介。懐かしさとまどい(この人誰だった?)のうちあつという間に閉会。73名の参加により同所にて二次会を開催。またまた大盛り上がり。2020年秋にも、又、同窓会をやるうとうとうとに。次回、1名も欠けることなく再会できることを願い、散会となった。



昭和63年卒業生同窓会 卒業30年を迎えて

幹事 西原美智代 (昭和63年卒)

「よし、スタート!」

昨年2018年8月12日(日)、「63年卒業生同窓会」の締め言葉です。村上聡さん(東京支部代表幹事)が音頭を取ってくれた「一本締め」はじめて聞いたこの締めの挨拶に、みんな一瞬、えっ?となりました。ひと息ついて顔を見合わせて「ここからがスタート!」ってことだね」と納得。

「同窓会に参加したことがきっかけで!」って話って、よく聞きますよね。村上さんの締めの言葉通りに、「63年卒業生同窓会」をスタートに旧交の輪は広がっています。

当日の参加者は約80名。県内外から阿波観光ホテルに集まりました。当時担任を下さっていた、佐々矢寸志先生、杜義治先生、ソフトボール部顧問の米本賢徳先生にも、かけつけていただきました。懐かしいお顔に、あつという間に高校時代の記憶が蘇り、ほっこりと嬉しくなりました。先生を交えての全体写真や、それぞれのクラス写真、ソフトボール部の部員さんとの記念撮影。カメラ係は、得意な同級生が担当。横山謙さん、明野晃治さん、小川直美さんが担ってくれました。

司会進行は、当時、現在ともに、同級生の中でも一番顔が広いんじゃないかと思われる、伊藤賢司さん。さすがのアドリブで楽しく、場の雰囲気を作り上げてくれました。

幹事団の藤村浩司さん、中東勢治さん、横山謙さんの3人グループは、バンドを組んで生ライブ!幹事

の役目も務めながら、会をいっそう盛り上げようと、ギターやボーカルの練習を重ねた3人。「BOØWYのB・BLUE」や「アースシェイカーのMORE」など、高校生時代のバンドブームを思い出させてくれる懐かしい曲の演奏に、会場は一気に当時に戻ったような一体感が生まれました。

卒業後、それぞれの道を歩んだ旧友とは、時間がたっても色褪せることのない当時の思い出話や近況報告など、話はずきることなく、参加者の約7割が二次会まで参加という予想以上の盛り上がりになりました。午前中に行われた総会の司会を務めてくれた中川幸夫さんが二次会でもしつかり場を盛り上げてくれました。

そもそも、卒業30年の年に、幹事のお役目が回ってくることは、数年前に話には聞いていました。とはいえ、まさかまさか、当時学校行事にはあまり携わっていなかった自分が、幹事のお役目を担わせていただくとは夢にも思ってもいませんでした。

卒業後も付き合ひのあつた待田雅子さんに「今年同窓会あるんだって!」と春に声をかけてもらってから、数ヶ月後、同窓会LINEグループに参加しました。

当初から準備をすすめてくれていたのは、この学年の代表幹事という大役を引き受けてくれた、藤村浩司さん。「声をかけてもらったことも何かのご縁、できることがあるなら」って軽い気持ちではじめてミーティングに顔を出したのですが、集まっていたのは5人。

なかなか集まらない情報。何かから手をつけていいのか分からず、すこ



し焦りもありましたが、できることからやってみよう！っておせっかい心に火がついて。帰り道、これは早く日程も企画もみんなに伝えなくちゃ！当日はいい会にするぞ！という気持ちが高まっています。

その数日後、偶然、中学から高校まで一緒だった友達にバツタリ！数十年ぶりです。同窓会のため？と驚くくらいのタイミング。顔の広いこの人に伝えておけば、もう安心！こんな風に友達から友達へ、どんどん輪が広がっていったのです。

当日は本当に楽しい1日でした。忙しい中、都合をつけて参加してくれた同級生とも、今回は参加できなかった同級生とも、またいつか会えるといいなと思うとともに、この縁がどんどん繋がっていき

ますようにと思える会となりました。その後、小さなグループで集まったり、帰省した友達を囲んで食事会をしたり、次への開催を企てたりと、あの日をきっかけに旧交の輪がさざなみのように広がっているようです。

「よー、スタート！」

文字通り、あの日がスタート。10ヶ月近くたった今、会の成功をこの言葉にかみしめながら、卒業30年を超えてまた、城南高校が母校であることを誇りに思っています。

最後になりましたが、この会を開催するにあたり、同窓会事務局の高木純一郎先生や昭和62年卒業の先輩方、準備や当日の会の運営のお手伝いを快く引き受けて下さった同級生の皆様、関わって下さったすべての皆様に心より感謝申し上げます。



追伸、今年2019年は、平成元年卒業生が幹事年となり「旧徳中・城南高校同窓会・総会」が8月11日（日）に、阿波観光ホテルにて開催されます。現在、元年卒業生の代表幹事、橋本洋二郎さんはじめ、岡田啓子さんなどの幹事の方達が、開催の準備を進めてくれていきます。この会報をご覧になられた皆様にも伝わっていきますように。この貴重な機会に、同級生の皆様は、会にご参加されて、

現在、過去、未来を、語り合ってください。勇気を出して参加してみたら、きっと新しい「スタート！」が見えますよ。

城南名物 ファイアー・ストーム

(会長1年生) 渦の音20号

城南F.Sの濫觴は、昭和二十六年十一月三日、文化祭・体育祭の跡始末の名目で、一米四方の「焚火」を囲み、歌と踊りにうち興じた生徒関係の若き教師二名阿部・桂尚教諭と約三〇名の生徒たち(城南祭役員を含む)によって点じられたささやかな「火祭り」に発する。

それが、二十年後の今日では、ついに、燃え上る炬火が夜空を焦し、校庭全一面を、全校の若き男女の狂宴乱舞の坩堝と化せしめるまでにいたったのである。

今去りゆかばいづくにか
若き命を求むべき
さらば今宵の月影に
思いの花咲かせなむ
思いの花咲かせなむ

たしかに、F.Sの火は、城南三ヶ年のそれぞれの思いの出の中に、決して消え去ることはなく燃えつづけることであろう。

だが、今日の盛況を迎えるにいたる間、城南F.S二十二年の歴史は、これまた決して坦々たる大道を歩んできたものではなかったことを物語っている。

幾度かの危機に遭遇し、禁止騒ぎもあった。(現在においても、F.Sアナク口論、マンネリ改革論、無用論はては廃止論もないわけではない。)

にもかかわらず、F.Sの火は一度も消えることはなかったし、今なお燃えさかり、さらに今後もよりはげしく燃えつづけようとしている。

一体、どこにF.Sの魅力があるのでしょうか。城南高校生「(いうまでもないが、ストームは教師のためのものではない。生徒自身の手でどうにでもなり得るものだ。生かすも殺すも参加者次第である。桂富士郎氏談)ーは、なに故に高歌乱舞狂宴の夕待ちのぞむのであろうか。

そは何思い、何語らむとするものぞ……。

昭和55年のF・Sを顧みて

昭和56年3月卒 郡 善則

長かったようで短かった三年間の高校生活は、僕にとつて、予想以上にすばらしいものだった。そして、僕が今、そう感じられるのも、城南に、F・Sがあったおかげである。それは、高校に失望していた、当時の僕にとつては、ものすごいショックだった。新入生への説明会の時、正直いつて、説明するために出てきた先輩が、何を言っているのか僕には理解できなかったし、それどころか、F・Sという言葉すら僕は知らなかった。しかし彼等の熱い口調によつて、彼等の説明しようとしている世界は、それまでの自分が知っていた世界とは、まったく異質なものではないのだろうか。と僕は感じた。

始まっておどろいた。練習どころのさわぎではない。夜空を

焦がす三つのやぐら、力の限り走り、舞い、歌う城南健児一千六百、まさに、北杜夫氏言うところの「天下一品のバカ騒ぎ」とはこのことだろう。そこには、むずかしい理屈など存在しない。ただ感情の激するままに行動する千六百名の若者がいるだけだった。自分を燃やしつくし、友と肩を組んで教室へ帰る時、僕は思った。

「ああ、あった。自分が求めていた高校がここにある。」それまでの失望など、どこかへ行ってしまった。

「高校生には可能性がある。やる気にさえなれば、何でもできるんだ。」

それから僕は、いろんな事に出した。手を出しすぎて、どれも完全にできたものはないような気がする。けれど僕はそれでもいい。とにかく自分はその存在したのだから。

確かに現在のF・Sには改善しなければならぬ点も多い。しかし、われわれ城南生は、F・Sを経験できたことを、誇りに思っているのではないだろうか。

僕は、城南を卒業しても、あの夜、友と歌った歌、友の暖かい肩、すべてが終わった後の残り火、そして高校最後のストームが終わった時、素直に泣けた自分を忘れないでいたい。

最後に、僕は、これから、高校生として城南に入ってくる者のためにも、いつまでも、残してもらいたいし、また、残っていると信じている。城南生が、若き血に燃ゆる者であり続ける限り。

言えば ファイアー・ストーム



今は昔のファイアー・ストーム

昭和42年卒 須木 成芳

『流星落ちて射す処、橄欖の実の熟る郷...』

ファイアー・ストーム、それは、前夜祭・文化祭・体育祭と続いた「城南祭」の最後に開催され、詩吟と呼ばれるこの叫びと、当時校庭の片隅にあったプールから運ばれた聖火？から檣への点火で始まりました。

そのファイアー・ストームを知った入学したての1年の頃は、その運営が中学までの先生の指示に従うものではなく、先輩たちの自治・自主運営で行われていることを知り、ただただ驚くばかりでした。しかし、2年・3年になると、それを当然のことと受け入れ、当日は、炎に照らされた友の顔を眺めながら、級友と肩を組んで歌を

歌い、炎の檣の廻りを駆け回り、すっかりファイアー・ストームに魅入られてしまいました。(勿論、全校1,900名を超える生徒の中には、火の周りで走って踊って歌って何が面白いんだ..という人もいました。)

そして、『いざや歌わんかな...』と歌ったのは、歌謡曲・POPS・フォークソングではなく、まして当時大人気だったビートルズの歌でもなく、旧制高校で歌われていた寮歌でした。それは、今から考えると、暗闇の中の炎を囲んだ雰囲気、七五調のリズムと文語調の歌詞は、過去の日本人の深層に触れるものだったのかもわかりません。

『南の国に、集いにし』3年間の高校生活、そして炎の周りで騒いだファイアー・ストームは、青春の発露であったことは、間違いのないと思いますが、一方で「祭りの後のさびしさ」を感じさせてくれた初めての機会だったような気がします。

城南と ファイアー

流星落ちて射す処
 橄欖かんらんの実の熟る郷さと
 南みなみの国につどいにし
 三年みとせの春もまた短しと
 或みとせひは饗宴うたげの庭に
 或みとせひは星夜の窓の下に
 若く高ろう感情の旋律をもて
 思うがままに歌ひ給え
 歌は悲しき時の母となり
 うれしき時の友ともなれば
 今宵城南富士山下かがり火燃えて
 われら城南健児一千五百
 熱と意気との炎を燃やすべき
 饗宴の時は来たりぬ
 いざや歌わんかな
 我らが青春の宴に

F・S寮歌私考

昭和41年卒 玉有 繁

今を去る50有余年むかし、1年生の2学期が始まって間もなくのことと覚えるが、竹刀を掲げたこわそうな上級生が「ファイアー・ストーム（F・S）の歌の練習をするけん、放課後は帰らんと体育館に全員集合せえ」と各教室を触れて回った。これが自分の「寮歌」との第一遭遇の始まりであった。

しかしながら、寮歌に最初からスムーズになじんでいったわけではない。そもそも、もはや存在していない、ほんの一握りのエリートたる「旧制高校」生の歌であり、当時、中学校からの進学率が未だ60パーセント台にとどまっていたとは言え、大衆化された新制高校生の愛唱歌としては如何なものか、という違和感があったのを覚えている。

にもかかわらず、城南祭F・Sを経験して以後、寮歌が自分の情緒世界の一隅を占めるようになり、時々寮歌を意識しつつ人生を送り、卒業40周年と50周年の節目には、同期の音楽家・川竹道夫君の主導のもと、有志で寮歌を歌い、CD化するということを続けてきている。このことは、歌をよすがに青春時代を懐かしむ懐旧行動一形態と言えようが、そもそも1960年代半ばという時代に、ハイティーンの自分たちが「古くさい」寮歌に魅せられていったのは何故だったのか。

若者たちが愛唱すべき歌が、当時他に無かったわけでもない。ちょうど「高校三年生」とか「美しい十代」といった青春歌謡(学園ソング)が大流行していた。まさに自分たちの存在、環境にふさわしく、皆なで口ずさめる歌謡であった。しかし、これらの「明るく」「希望あふれる」青春、「清らかな」男女交際(!)は、ほとんどの(男子)高校生にとって、そうありたくはあっても届かない幻想の世界だったのではないか。一方で野放図な望みや夢、他方での自

信喪失と劣等感が、受験の圧迫、高まる異性への関心とない交ぜになって若者の心をかき乱していたのだ。

こうして、男女(おとこおみな)の棲む「俗な」世間に背を向け、旧制高校生を孤高の存在としてヒロイックに歌い上げた寮歌の世界が、時代を飛び越え、自分たちにも親しいものと感じられてくる。いわば「花も嵐も踏み越えて」行く「男の生きる道」、つまりは「硬派」の感傷の受け皿を寮歌が担ったのではなかったか。

多分にやせ我慢的「硬派」の心情は、やがて、現実世界への異議申立てとして登場し、世界を席卷したフォークやロックに新しい捌け口を得ていった。そして、60年代末に全国に燃え上がった学園紛争は、かろうじて命脈を保ってきた旧制高校的な教養主義を徹底的に解体し、ついに生きている歌謡としての寮歌の存在感は失われ、純然たる「懐メロ」として今日の定位置を得るに至ったと思われる。

現在の城南高校のF・S事情について、担当の先生に伺ったところでは、寮歌は、開会式のF・S実行委員長による「詩吟流星」(流星落ちて射すところ・・・)とそれに続く生徒全員の「城南健児の雄叫び」(元歌は五高寮歌「武夫原頭に」)、閉会式で3年生を送る歌としてF・S委員によって歌われる旧制水戸高校暁鐘寮送別歌(自分には初見)に認められるが、ストーム中の歌は、各クラスで自由に選んだ曲で、多くは現代の流行歌であるようだ。

このことについて、現代の城南高生たちが、自ら歌いたい歌を自らの時代の中から見出し得ているのだと解すれば、当然・自然な姿と受け止められよう。

なお、伺うと、近年のF・S委員長の過半は女子が選ばれているそうである。差し詰め、現代のF・Sは、優しい草食系男子を差し置き、逞しい「硬派」女生徒が志向するものとなったのか、それとも男装を憧れる宝塚歌劇の世界の領するところへと変貌しつつあるのか、古稀老人の興味を大いにそそられる。

平成30年度 旧徳中・城南高校同窓会 総会 講演会 懇親会

代表幹事 藤村 浩司 (昭和63年卒)

「平成30年度旧徳中・城南高校同窓会総会・講演会・懇親会が平成30年8月12日(日)午前10時30分より阿波観光ホテルで開催されました。全国各地より総勢100名の方にお集まりいただきました。

◆総会では栗飯原治仁「同窓会会長(昭和48年卒)、永松宜洋学校長の御挨拶に続き、御来賓の上原稔



子松柏会会長からの御祝辞を頂戴した後、司会の長尾和子副会長(昭和47年)と、議長の栗飯原治仁会長との進行により、「平成29年度事業報告・決算報告・監査報告」「平成30年度事業案・予算案」「同窓会幹部役員改選」等の説明と審議が行われ、いずれの議案も満場一致で承認されました。その後、恒例の最年長最年少参加

者の表彰へと移り、今年度は、最年長参加者 美馬準一様(昭和19年卒)、最年少参加者 飯田悠衣様(平成26年卒)へ、それぞれ賞状と記念品が授与されました。

◆午前11時30分からは四国旅客鉄道株式会社(JR四国)代表取締役社長 半井真司様(昭和49年卒)を講師にお迎えし、ご講演いただきました。全国に先駆けて人口減少が進行している四国において、今回の演題でもある「わざわざ乗りに来ていただける鉄道をめざして」についてJR四国の現状や取り組みを映像を交えながらお話いただきました。

◆午後12時30分からの懇親会は、中川幸夫様(昭和63年卒)の司会のもと、幹事学年代表藤村が挨拶をさせていただき、岡島一郎様(昭和21年卒)の乾杯のご発声により始まりました。卒業生が一堂に会し久しぶりの再会、また世代



を超え親交を深めることができ、特別な時間を過ごすことができました。そして今回のアトラクションは、幹事学年である昭和63年卒業生3人(横山謙、中東勢治、藤村浩司)が、この日の為に結成したギターユニットによる演奏を行い、皆様にお楽しみいただきました。その後もますます会話が弾み、あつという間に時間が過ぎ

東京

渦の音クラブ(関東支部)の

活動報告

渦の音クラブ(関東支部)は、2018年10月6日(土)に、ホテルニューオータニに76人の参加者を集めて、平成30年度・第43回「渦の音クラブのつどい(総会、講演会、懇親会)」を開催しました。講演会では、『なっちゃんの写真館』が見つけた、世紀を超えた日



ぎました。終盤、毎年恒例の旧徳中および城南高校校歌斉唱に加え、昭和41年卒業生主導のもと、開校記念の歌も、最後は万歳三唱にてお開きになりました。末筆ではございますが、総会開催において、多くの方々のご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

露友好 111年の時を超えてをテーマに、城南高校と関わりの深い立木写真館常務取締役の立木さとみさんにご講演いただきました。時を超えた日露友好の物語を「写真のチカラ」としてお話いただきました。テレビドラマやドキュメント番組からのオファーが様々あるのもわかる、素晴らしくドキドキのお話でした。

懇親会は、幹事学年の村上聡さん(昭和63年卒)の司会のもと、参加者で最年長の有井久夫さん(旧徳中 昭和22年卒)の乾杯でスタート。その後、会場内で学年を超えた交流を深めることができました。徳島からのビデオメッセージや、数十年にわたる卒業アルバムの写真をもとにした城南高校ヒストリーの上映など、幹事学年の皆さんの素晴らしい企画



メールでお問い合わせください。渦の音クラブ(関東支部)は、理事会を年間3回程度開催し、総会、講演会、若手会員交流会、会報発行などを企画、検討、実行

に、参加者は大満足でした。

今年も集合写真を撮影し、「やはり徳島といえば阿波踊り！」ということで、全員で阿波踊りを踊りました。その後、「旧制徳島中学校歌」、「城南高校校歌」を大きな声で斉唱しました。幹事学年の昭和63年卒の報告とともに、来年も学年を超えた関東地区在住の城南高校同窓生が集まりました。うーという思いを確認し、閉会となりました。

今年の令和元年度・第44回「渦の音クラブのつどい(総会、講演会、懇親会)」は、2019年11月2日(土)12時から、例年と同じくホテルニューオータニのレストラン・ガンシップで開催します。城南高校平成4年卒業生の中田浩資さんに、世界の撮影紀行のフォト・トークショーをお願いしています。新疆ウイグル自治区などのダイープな地域の豊富な写真や動画をもとに、様々な世界を

実感するフォト・トークショーです。関東在住者以外の方も参加大歓迎ですので、11月2日(土)は、大勢の方の参加をお待ちしています。

一方、関東支部では、若手会員の発掘、拡充を目的に、50歳以下限定の交流会を7年前から開催しています。「第7回若手会員交流会」は、2018年9月7日(金)に、東京駅近くで26人が集まり開催しました。「渦の音クラブの現状と課題」などをテーブルごとに語り合うなど、楽しくも充実した若手会員交流会になり、今後の城南高校の「きずな」に期待できる会となりました。

今年の「第8回若手会員交流会」は、前年幹事学年(昭和60年卒)以降の卒業生を対象に、2019年9月28日(土)の16時から18時まで、新宿ライオン会館で開催予定です。対象学年は会費無料ですので、気軽に事務局まで

してきます。理事以外の方も毎回多数参加し、気軽に意見交換する場となっています。「渦の音ブログ」、「渦の音クラブ・フェイスブック」などに理事会開催予定などの情報を公開しています。理事に気軽にご連絡、ご参加ください。理事会後には、三田駅界隈で交流会も楽しく開催しています。

「渦の音クラブ・フェイスブツ

2018年 城南近畿F S会

近畿支部長 糸田川廣志(昭和42年卒)

城南F S会(旧徳中・城南高同窓会近畿支部)2018年は、10月14日(日)12時より、大阪梅田「レストラン モリシタ」にて、28名の参加で総会を実施した。徳島から、同窓会会長の栗飯原治仁氏、城南高校より校長永松宜洋氏を迎え、近畿在住者26名が集った。

校歌斉唱に続き、栗飯原会長の挨拶、永松校長の城南高校の現状等の話があった。ファイアー・ストームは現在も継続されており、近畿支部の名は継続できるようである。

昭和35年卒の先輩から、平成元年卒までが集い、様々な思いを語りあった。

高校野球の甲子園出場は、2011年の21世紀杯以後実現には至っていないが、現状は厳し

ク」では、関東に限らず城南高校同窓会に関わる新鮮な情報の発信に心がけています。同窓生の皆さん、「渦の音クラブ・フェイスブック」に「いいね」をお願いします!!

【関東支部事務局・三橋浩志(昭和59年卒)、三橋(田井)稔子(昭和59年卒)】

いようであった。しかし、多方面で、文武両道の道を確実に歩んでおり、歴史は後輩たちによって、積み上げられているようである。

近畿の状況は、28名の参加で示されるように芳しい状況にはなく、とりわけ、若い層の近畿在住は少なくなっている。

近畿支部創立50周年を、4年後の2023年に迎えるが、団塊世代が後期高齢者となる4、5年後が大きな節目となることは、明らかに近づいてきたといえる。

2018年も寒川博士のノーベル賞受賞にはならなかったが、この分野での受賞が続き、期待が大きく膨らんでいる確信を深めているのが、私の感情である。

2023年の近畿支部創立50周年に向けて、2019年はイベント開催を行い、徳島応援を掲

げて、2021年、2023年とホップ、ステップ、ジャンプと進める予定である。

イベントの核は、徳島で活躍するシンガー・ソング・ライター皆谷尚美さんのミニライブと関西阿波おどり協会(会長は寒川賢治氏・S42卒)の演舞である。

阿波おどりの歌ありで、ルーツである阿波に拘り、阿波おどりでルーツ阿波を満喫したいと考えている。

今年の9月29日は、100名限定として、格安料金で楽しんでもらおうと思っている。

近畿支部の終活第1弾として、今年を多くの方と楽しみたい!

本格派のシンガー・ソング・ライターと阿波おどりをみんなで楽しみたいと思う。

ザ・ビートルズに惚れぬいた城南時代であったが、終活は徳島に拘って進みたい!



おめでとうございます

(敬称略)

平成30年度

秋の褒章

(11月2日掲載)

◇藍綬褒章

佐藤修斎(62) 昭和49年卒
保健衛生功績

徳島市幡町2-12-1

◇瑞宝中綬章

森下 一(78) 昭和34年卒
保健衛生功績

高知市旭上町8

令和元年度

春の叙勲

◇瑞宝中綬章

芳村敏夫(78) 昭和34年卒
教育研究功績

名西郡石井町石井字石井71-17

平成30年度

秋の叙勲

(11月3日掲載)

◇瑞宝重光章

高木祥吉(70) 昭和42年卒
金融行政事務功績

東京都文京区小日向1-18-35

◇瑞宝小綬章

伊藤幹雄(70) 昭和42年卒
総務省行政事務功績

東京都杉並区高円寺北2-28-19

◇瑞宝中綬章

広瀬哲樹(70) 昭和42年卒
内閣府行政事務功績

東京都北区神谷1-1-27-401

森 博彰(70)

昭42年卒
財務行政事務功績

横浜市青葉区荏田北1-17-4

◇瑞宝小綬章

大西 宏(77) 昭和35年卒
警察功績

徳島市南二軒屋町1-2-61

◇旭日双光章

西野武明(77) 昭和35年卒
中小企業振興功績

兵庫県宝塚市中州2-4-17

◇瑞宝双光章

高田堅二(81) 昭和31年卒
学校保健功績

美馬市脇町大字脇町1-1

◇瑞宝双光章

飛梅靖郎(78) 昭和34年卒
学校保健功績

板野郡藍住町矢上字西42-7

林 法生(70)

昭和41年卒
調停委員功績

阿南市長生町西方556

飛梅 董(82)

昭和30年卒
学校保健功績

高松市伏石町1390-1

第8回 渦の音ゴルフコンペ報告

☆個人戦優勝 美馬 光夫さん(昭和32年卒) ☆☆エイジシュート達成 ☆☆
☆団体戦優勝 昭和59年卒(久米 義則さん、西野 明さん、多田 秀穂さん)

旧徳中・城南高校同窓会「第8回渦の音カップゴルフコンペ」が、平成30年10月7日(日)、県内屈指の名門コース・サンピアゴルフクラブにおいて、総勢91名(参加組数24組)のゴルフが好きて好きて堪らない元徳中・城南高校同窓生が参加し、盛大に行われました。

当日は、秋風が爽やかに吹く絶好のゴルフ日和で、午前8時32分から順次スタートし、個人優勝そして団体戦の優勝を目指し、熱い戦いが繰り広げられました。

同学年でチームを組み参加された方、先輩後輩が同じ組となりプレーされた方と、様々な形ではありましたが、皆さんそれぞれ昔に戻ったように楽しく、和気あいあいとプレーされていました。そのせいか、随所にナイスショット、ナイスパーディーの声が聞かれ、ゴルフはメンタルのスポーツと言われるますが、自然と良いスコアにつながった方が多かったように感じられました。

最高年齢は三木啓治さん(昭和28年卒)で、最も若い参加者の卒業年次(昭和63年卒)とは35年の開きがあり、こんなところからも、旧徳中・城南高校の伝統と歴史を感じたとともに、ゴルフは、年齢を問わず楽しむことができるスポーツだと実感した次第です。

そして、戦い終わっての成績ですが、個人戦は、グロス80、ネット69.2で美馬光夫さん(昭和32年卒)が見事優勝されましたが、さらに、ゴルファーの憧れの一つであるエイジシュートまで達成されました。ここに、その偉業を称えたいと思います。また、団体戦は、グロス269、ネット216.2で、昭和59年卒業の久米義則さん、西野明さん、多田秀穂さんのチームが優勝されました。個人戦、団体戦共に2位、3位とは僅差であり、皆さん素晴らしい結果でした。本当におめでとうございます。

スコアに関しては、大満足の方がおられる一方、普段の実力が十分発揮できず本意な結果に終わった方など、様々だったことと思いますが、参加された皆様が無事にコンペを終えることができ、一安心でした。

今回、何かとお忙しい中、コンペに参加いただきまして、ありが

とうございました。

また、今回のコンペは、本来であれば、昭和62年の卒業生が幹事となりお世話をすべくところ、参加者が集まらず困っていた中、昭和61年卒業の先輩方が、昨年に引き続き幹事の大役をお引き受けいただきました。この場をお借りし、感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

次回、第9回の「渦の音ゴルフカップコンペ」は、「令和」の時代となり初めての開催となります。これまで御参加いただきました方はもちろんのこと、平成の時代に城南高校で学んだ方々につきましても、御参加いただければ幸いと存じます。是非、皆様お誘い合わせの上、多くの方々に御参加いただけることを願っております。

結びに、この「渦の音カップゴルフコンペ」が、今後とも末永く続いていくことを願い、このたびの報告とさせていただきます。

(昭和62年卒 西上修次、川人久範)

旧徳中・城南高校ゴルフコンペ 第9回「渦の音カップ」ご案内

日 時	令和元年10月13日(日) 午前8時32分スタート(32組)
場 所	サンピアゴルフクラブ 徳島市入田町安都真215-1
参加費	プレーフィー 13,780円(食事代別) + 3,000円
幹 事	綱島久美子(昭和55年卒) 携帯:090-4014-9298 乾 浩二(昭和55年卒) 携帯:090-7579-1726 妹尾 昌可(昭和55年卒) 携帯:090-3787-4857
呼びかけ人	森 壮太郎(昭和37年卒)

※※ エントリー:9月7日(土)締切 ※※

お申し込みについては、先着順とさせていただきます。詳細につきましては、幹事までお問い合わせください。

後援会活動

(平成30年度実績・令和元年度計画)について



後援会長
酒池 由幸
(昭和50年卒)

旧徳中・城南高等学校同窓生の皆さま、初めまして。昭和50年卒の酒池由幸です。

令和元年6月の後援会「会長副会長」で、森壯太郎前会長より、「会長」のバトンを引き継ぎました。よろしくお願いたします。これまでいただきましたご支援にお礼を申し上げますとともに、今後もお礼を申し上げます。

さて、30年度の後援会の支援事業としましては、①生徒の県外大会出場支援費として30万円、②物品購入支援として、大型テレビ、アンサンブル練習用機器一式、冷水機、テント用三方幕の4点、計54万5千円、合計で84万5千円の支援を行いました。

一方、後援会への会費寄付金の納入につきま

しては、個人20名の方から30万7千円、団体として日亜化学工業、徳島県庁、四国放



送、徳島新聞社の4支部から計36万円のご協力をいただき、合計で66万7千円のご入金金をいただきました。不足額につきましては、皆様からお預かりしました後援会費の過年度残金から充当しております。



◇後援会ホームページURL◇
(同窓会のホームページと共用)

<http://www.bizan.info/>

◇ 会費等振込先 ◇

会費は 一口 5,000円 (何口でも可)
口座名義はいずれも「城南高等学校後援会」
金融機関名 店番号 口座 口座番号
阿波銀行本店 100 普通 1192723
徳島銀行本店 001 普通 7815411
口座 記号 番号
(ゆうちょ銀行 01680・2・60805)

進路状況

城南高等学校 進路指導課 課長(進路指導主事) 佐伯 健司

平成31年度入試の合格状況は、延べ人数で国公立大学に136名(内現役121名)、私立大学に323名(内現役289名)、短期大学及び専門学校に43名(内現役42名)、就職3名、公務員2名となりました。

国立大学では北海道大1名、東北大1名、名古屋大1名、神戸大4名、九州大2名、横浜国立大1名、筑波大2名、岡山大1名、熊本大1名など旧帝大、地域拠点大にも多くの生徒が合格しています。

現役生の国立大学の合格者は、近年、卒業生の40%前後という状況が続いています。すべての合格状況については、本校のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

系統別では、「文高理低」の基調にやや変化が見られます。文・人文法・政治学部系統や、理・農・工学部系統の人気の高まっています。また、資格が取れる医療系学部や教育系学部については相変わらず根強い人気があります。

本校においても、よく似た状況ですが、特に理系クラスに在籍している生徒が多くなっており、スーパーサイエンスハイスクール指定校として、今まで以上に数学、理科への興味関心や学力の向上に努

めたいと考えています。

平成30年度入試から徳島大学の薬学部でAO入試が始まるなど、多くの大学でAO入試や推薦入試が実施されています。また、現在の高校2年生が受験する年から、現行のセンター試験が廃止され新しい共通テストが始まります。さらに英語に関しては、民間の外部試験の活用も始まるなど大学入試が大きく変化しています。

このように入試環境は変化しつつありますが、城南生は自主自立の精神のもと、勉強と部活動との両立を目指し、日々努力を続けています。すべての生徒が第一希望の進路が実現できるよう、これからも教職員一丸となって進路指導に取り組みたいと考えています。

城南祭の輝きをもう一度！
文化部同窓生ネット(仮称)
参加者募集

城南祭は、FSだけではありません。各文化部の展示、発表も、城南祭を盛り上げました。卒業生のみならずが城南在学中、文化部で輝いた青春をもう一度、花咲かせましょう。世代を越えたつながりの機会を設けます！世代を越えた人と人との結びつきが、新しい可能性をここに創ります！
文化部同窓生ネット(仮称)！
本年度城南祭に一室を借りることができましたので、展示、出品できる方の作品を募集します。各部OBの方でなくとも、興味のある方は参加歓迎します。申し込み問い合わせは、下記e-mailにお願い致します。

e-mail : info@jonan-ob.com
担当：川竹道夫(昭和41年卒物理部OB)

令和元年度 支部同窓会のご案内

東京 第44回渦の音クラブ(関東)の集い

大阪 城南FS会(近畿)

日時 令和元年11月2日(土)
12時より
会場 ホテルニューオータニ
インターナショナルレストラン「ガンシップ」
会費 8,000円

日時 令和元年9月29日(日)
11時半より
会場 新阪急ホテル2F
会費 5,000円

参加申込、問い合わせは次ページの各事務局までお願いします。

令和元年度 同窓会総会・懇親会ご案内

- 日時 令和元年8月11日(日) 午前10時30分から(受付開始10時)
 ○場所 阿波観光ホテル(徳島市一番町3-6-13 JR徳島駅前)
 ○会費 6,000円
 ○講演
 演題 ギター人生半世紀。未だ反省期
 講演者 ギタリスト 堀尾 和孝(昭和49年卒)



本人提供
卒業アルバムより

プロフィール

- 1955年 徳島県小松島市生まれ
 1967年 南小松島小学校卒業
 1970年 徳島大学附属中学校卒業
 1973年 徳島県立城南高校卒業
 1975年 東京電機大学入学 翌年中退
 1978年 プロのギタリストとしてデビュー。柳ジョージ、デヴィッド・ボウイをはじめ、20年に渡り、数多くのアーティストやバンドの演奏、TV番組、CM音楽の作曲、編曲、音楽制作をする。
 2000年 アコースティックギター1本でのライブを「アコギ一本勝負!」と命名。本格的ソロ活動に入る。「アコギ一本勝負!」老若男女に大人気となり、年間ライブ数は200を超える。ニッポン放送「上柳昌彦 あさばらけ」「鶴瓶 日曜日のそれ」テーマ曲を作曲演奏。現在放送中。大杉漣のライブサポートを15年に渡って務める。鶴瓶の「日曜日のそれ」600回、700回記念放送にゲスト出演。落語ツアーでのお囃子演奏も大好評を得る。東邦音楽学校講師

ディスコグラフィ

- DVD 「酔弦生搾り」
 CD 「酔弦suigen」「Journey アコギ1本勝負」「DayBreak暁」「SAILING...南へ」
 譜面集 「スーパーソロギター・アコギ1本勝負」

平成元年に城南高校を卒業して30年。そして新しい時代「令和元年」に同窓会を開催出来るという事は、ある意味キセキだと感じています。大先輩である堀尾和孝さんの軽快で痛快なお話とライブを聞きながら一緒に楽しい時間を過ごせたらうれしく思います。どうかこの機会に同級生、先輩、後輩をお誘い合わせの上でご参加いただきますようお願いいたします。幹事・スタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。

令和元年度同窓会代表幹事 橋本洋二郎(平成元年卒)

事務局の案内

同窓会等のお問い合わせは下記の各事務局までお願いします。
同窓会・後援会ホームページもご活用ください。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

〒770-8064
 徳島市城南町2丁目2-88 城南高校内
 高木 純一郎(昭和36年卒)
 ☎088-652-0084 ☎088-656-0484
 メールアドレス joundousoukai@ca.pikara.ne.jp
 ホームページ http://www.bizan.info/

渦の音クラブ事務局

〒112-0001
 東京都文京区白山4丁目24-17
 三橋 浩志(昭和59年卒)
 ☎03-6912-0221 (FAXのみ)
 メールアドレス info@uzunooto.jp
 ホームページ http://uzunooto.jp/

日々の活動はフェイスブックでも発信中。
「渦の音クラブ」に「いいね」をよろしく。

城南FS会(近畿支部)事務局

〒665-0845
 宝塚市栄町3-1-11-903
 事務取扱は下記まで
 〒771-2501
 徳島県三好郡東みよし町昼間573-2
 糸田川 廣志(昭和42年卒)
 ☎090-7751-9658 ☎0883-79-3270
 hiro4823ito@yahoo.co.jp

発行ご支援の
お願い

会報の発行は、卒業生の皆様方からの支援によって支えられています。これからも引き続いて定期的に会報が発行できるよう、皆様のご支援をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。

ゆうちょ銀行 加入者名 城南高校同窓会会報係 口座番号 00140-0-710668